

# 日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢期運動連絡会  
〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンボール中野504号  
Tel/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com  
http://www.nihonkouren.jp

発行：毎月1日  
2016年11月1日  
No.315



10・20「第15回宮崎県高齢者大会」＝宮崎市民プラザ(記事P4)

## 第30回日本高齢者大会in東京の総括と下期運動について 10・11「10月度高齢期運動推進事務局団体会議」に11団体15人 日本高齢期運動連絡会

日本高齢期運動連絡会は10月11日(月)午後、中野事務所で「10月度日本高齢期運動推進事務局団体会議」を開き、11団体と事務局合わせて15人が出席しました。



1 報告事項 1) 各県・団体の報告で大会総括もあわせて各県の大会・運動の取組みが報告されました。

2. 協議事項 1) 第30回日本高齢者大会in東京の総括については、県・団体をお願いしているアンケートを回収し取りまとめたものを重視していく。2) 下期の運動について①

要求実現に向けた年末の取り組みについて●年末の座り込み行動と厚労省交渉について事務局提案 方針(案) 日程：12月14日(水)正午～16日(金) 正午までの3日間・要求項目は昨年度のを基に原案を作成し、11月の高齢期運動推進事務局団体会議で確認する。②第31回日本高齢者大会in沖縄の準備状況について 11月中旬現地実行委員会立ち上げる予定。2018年1月に名護市長選があること、台風の時期を避けるなど考慮すると2017年10月中旬開催が望ましいとの提案があり、日程に関しては各団体の全国大会などもあり早急に調整

が必要との意見がありました。会場についても数千人におよぶ参加者の移動の問題などの考慮が必要③日本高齢者大会中央実行委員会総会日程について事務局長提案

◇次回高齢期運動推進事務局団体会議

11月21日(月) 13:30～

◇中央実行委員会(予定)

日時: 12月17日(土) 10:30～16:00

会場: 東京都生協連会館3F会議室

東京都中野区中央5-41-18

○第30回日本高齢者大会in東京

第4回中央実行委員会 10:30～12:30

○第31回日本高齢者大会in沖縄

第1回中央実行委員会 13:30～16:00

※確定次第ご案内します

## 若者も！高齢者も！安心できる年金を！ 憲法を活かし25条を輝かそう 10・14「年金一揆2016」中央集会 日本高齢期運動連絡会



「若い人も高齢者も安心できる年金を」をスローガンに「年金一揆2016」の中央集会が10月14日(金)午後、日比谷野外音楽堂で行われ、東京・神奈川・埼玉・千葉の首都圏の年金者組合の皆さんを中心に約2400人が参加しました。

日本高齢期運動連絡会は中央団体としてのぼり旗をもって参加し、紹介されました。

集会では初めに川柳むしろ旗が登場。

「欲はなし最低保障は血の叫び」「ふところに手を突っ込むな積立金」「シールズの後に続くはジー(爺)ルズだ」など今年も傑作揃い。

富田年金者組合委員長(第30回日本高齢者大会in東京・中央実行委員長)の主催者あいさつ、小田川全労連議長の共催あいさつがあり、来賓として日本共産党小池晃参議院議員が挨拶し、自由党小沢一郎代表からメッセージが送られ披露されました。



年金裁判の加藤弁護士からの裁判報告の後、女性・青年のあいさつとして新日本婦人の会の代表、新宿一般の青年労働者から若々しい連帯のあいさつがありました。

集会の最後に中央集会宣言として「マクロ経済スライド廃止・最低保証年金つくれ・年金裁判勝利・年金の毎月支給を・年金者組合積立金は株に投資するな・戦争法廃止・安倍内閣退陣」を訴えました。

集会後銀座から東京駅まで元気にデモ行進しました。  
なお、年金一揆は14日を中心に全国43

か所で集会・デモ・宣伝行動等が取り组まれました。

(記 中山晴夫)

## 沖縄大会の準備始まる！

来年の第31回日本高齢者大会in沖縄に向けた準備が現地沖縄でも始まりました。

10月11日、12日、日本高齢者大会中央実行委員会の藤谷事務局長と沖縄医療生協の喜瀬慎全氏が沖縄県内の団体を周り、高齢者大会開催の呼びかけを行いました。沖縄民医連の名嘉共道事務局長は、「沖縄県で初めての大会。民医連や医療生協が総力をあげなければ成功できない。多くの団体に呼びかけて成功させたい」と話しました。年金者組合県本部の吉田務委員長は、「最初どこで開催が決まったのかと疑問に思った。しかし、情勢から沖縄での開催の意義はよくわかる。オール沖縄の運動をオールジャパンにできればと考えている。他の団体とも相談して実行委員会を作りたい」と述べました。

色々人たちの声かけで、早速実行委員会の

呼びかけ人を引き受けてくれる方や事務局を手伝ってくれる方が決まり、実行委員会準備会を11月17日に開催すること、沖縄県実行委員会の結成総会を12月14日に開催することなどが決まりました。

また現地実行委員会事務所は、沖縄医療生協本部内の部屋を提供していただけることとなり、電話も開設しました。

沖縄県実行委員会事務局の住所と電話は、以下の通りです。

■住所 〒901-0294

豊見城市字真玉橋593番地の1  
とよみ生協病院8階

■電話番号 098-850-8041

■FAX番号 098-850-7990

(高齢者大会県実行委員会気付)

## 日本高連が沖縄高江と辺野古の住民と懇談 ～来年の高齢者大会に向けて連帯を確認～

第31回日本高齢者大会in沖縄の準備のために沖縄を訪れた日本高連の藤谷事務局長は、10月13日に沖縄県東村高江と名護市辺野古を訪問し、新基地建設反対運動をしている住民らと懇談しました。

13日は早朝から喜瀬慎全氏の案内でまず高江を訪問。雨の中で砂利トラックの搬入阻止をしている住民の元に向かいました。この日は機動隊がN1地区に通じる道路を封鎖し、抗議する住民が逮捕されました。緊迫した高江のテントでの懇談では、「この状況を本土に伝えて欲しい」「高齢者の方々が1,000人も沖縄に来て私たちを励ましてくれるのは大変ありがたい」「今年中が勝負。来年の高齢者大会まで待たずに沖縄への連帯行動を起こして欲しい」などの声寄せられました

午後には、辺野古のテント村を訪問。



今年の東京大会の決議や来年の第31回日本高齢者大会in沖縄の説明をすると、「それはすごい。ここで頑張っているのも多くが高齢者。励みになる」「高齢者が私たちの行動に連帯を表明していることを初めて知った」「今は工事が止まっているが、高江の基地建設を強行して次は辺野古の建設を一気に進めようとしている。」「沖縄の基地の問題は日本の問



題。沖縄でこんな大きな大会の開催を決めてもらいたい嬉しい」などの声が上がりました。

懇談の中で、「それだけたくさんの方が内地から来るのなら高齢者大会に合わせて辺野古や高江の住民との交流をする決起集会を開いたらどうか」「参加者全員に私たちのたたかいについて説明したい。30分でもいいから

一緒に座り込みをしてもらいたい」「辺野古の写真集を貸し出すので全国各地の高齢者大会などで展示してもらえないか」などの要望も出されました。

これらの要望は、沖縄県実行委員会と中央実行委員会に持ち帰って論議することとしました。

## 老いてこそ 人生 いつまでも健康でおしゃれに 「第15回宮崎県高齢者大会」開く

宮崎県高齢期運動連絡会

宮崎県高齢期運動連絡会は、10月20日（木）、宮崎市民プラザで『第15回宮崎県高齢者大会』を開催し、県内から145人が参加しました。



午前の部は、

- 1) いつまでも健康でおしゃれに
- 2) 介護予防・認知症予防体操
- 3) アベノミクスは国民のくらしを破滅に導く、と3つの分科会を行いました。



午後の部は平均年齢79.9歳、12人のフラガールのオープニングではじまりました。

記念講演では、郷土の歌人若山牧水の研究者でもあり、俳優堺雅人の恩人である伊藤一彦氏が『老いてこそ人生』と題し、「短歌は1,300年の歴史があります。毎年5,000首の短歌の応募があり、その中で100歳以上の短歌は30首以上もあります」と、100歳以上の高齢者



の短歌を紹介し、短歌を通して笑うことの素



晴らしさを語りました。

また「病氣やけがで体が老いっても心はいつも老い盛り。老いの決まった姿はありません。他人と比較せず自分が生きたいように生きてもらいたい。子どもや孫が平和に老いを迎える社会を私たちは築かなければなりません」と、短歌をまじえながらユーモラスに講



演されました。

最後に第30回日本高齢者大会参加報告、第15回宮崎県高齢者大会アピールをみんなで採択しました。

(事務局 田中裕人)

## 平和のうちの生きる権利を保障し 高齢者が大切にされ豊かに過ごせる平和な社会を 「第20回北海道高齢者大会」に350人超

全日本年金者組合札幌支部協議会  
「年金者組合 さっぽろ」より

「歳をとるのは迷惑でしょうか？」

9月24日(土)、第20回北海道高齢者大会が「平和のうちの生きる権利を保障し—高齢者が大切にされ豊かに過ごせる平和な社会を」をテーマにして、札幌市北区民センターで開催されました。

午前中は開会行事に続き、板垣淑子さん(NHK大型企画センターチーフプロデューサー)の「老人漂流社会 団塊世代に忍び寄り『老後破産』」と題する記念講演がありました。

講演ではまず、団塊世代のリタイアにより低所得の高齢者が急速に増え、夫(妻)との死別や病氣などをきっかけに、病院などを「漂流」したあげく、預貯金を取り崩し「破産」してしまう高齢者も増えている実態が話されました。その後、「老後破産」や「親子共倒れ」の実際の例をビデオで視聴しながら話が進め



板垣淑子さん

られました。どちらも、「辛くても我慢する」「人の迷惑になりたくない」と思い孤立してしまう話でした。

また、現在は職業不安定な未婚の子と老齡な親を団塊世代が同居し支える世帯が増えてきていて、「三世代共倒れ」の危険も出てきているとのことでした。今後、社会保障の充実などで、「老後破産」を防ぐと共に、高齢者を孤立させない取り組みの必要性も話されました。

最後に、実践例として埼玉県幸手市の「幸せ手伝い隊」の活動が紹介され、この取り組みによって、役に立つ自信がわき、つながりができ、地域の風通しが良くなってきているそうです。

私達が知りたいと思っている事にストレートに答えてくれる講演でした。会場はイスが足りなくなるほどの盛況で、参加者は350人を超えました。



第1分科会



記念講演



第2分科会



そば打ち



布でつくるブローチ



うたごえの広場

講演会終了後、恒例の体験コーナー「そば打ち」が行われ、自分で打ったそばを充分堪能しながら味わっていました。

昼食休憩後、（分科会）

- ①「高齢者の貧困と学ぶ楽しみの権利」
- ②「スライド『非常事態条項』は独裁国家への道」（講座）「どうなる？どうする？介護保険」（講習）「布でつくるブローチ」（交流）「うたごえの広場」に分かれ16時まで熱心に学び合い、大会を終了しました。

「年金者組合さつぽろ」第153号 2016年15月15日より

# 第30回日本高齢者大会・東京実行委員会が大会を総括 ～大会の成功を確認し、新たな段階の運動をよびかけ～

第30回日本高齢者大会in東京 東京実行委員会



第30回日本高齢者大会in東京・東京実行委員会は、10月26日（水）、参議院議員会館で第6回実行委員会総会を開催し参加者全員で総括文書と新しい運動の方針を確認、解散しました。

総括案を提案した菅谷正見事務局長は、「東京大会は大きく成功した」ことを強調。成功の内容として、①2日間延べ1万人を越す参加で大きく成功したこと、東京からは要員を含めて5,500人が参加して成功を支えたこと、②安倍政権が立憲主義と平和憲法を蹂躪し、社会保障破壊、生活破壊の道突き進む情勢の中、繰り返しの論議で合意を広げ「憲法をいかし戦争法廃止を いまこそ人間らしく生きるために手をつなごう」という大会サブスローガンをかけ、このスローガンのもとに講座や分科会、記念講演などの企画を組み、多くの参加者の賛同と共感を広げたこと、③例年を大きく上回る24の講座、22の分科会、5つの移動分科会、4つの夜の企画を準備し、2日目の基調報告も含めて、現代社会を総合的にとらえ、高齢者をはじめとする私たちの生活の深刻な実態を明らかにし、課題と運動の方向を明らかにすることができたことをあげました。

企画、組織、財政、要員確保、広報などの各委員長から部門ごとの総括報告を受けた後、都内各地の地域実行委員会から取り組み報告がありました。

今回の東京大会では、都内に39の地域実行委員会が組織されましたが、20の地域実行委



員会ができた三多摩地域からは、「各市レベルで様々な取り組みが行われた。他団体への申し入れや高齢者の要求実現運動を強めながら大会参加者を増やした」という報告がありました。

北区からは、北区高齢者大会を28回開催してきた力をいかして参加を広げたこと、参加者の中からシルバーパスなどの要求運動の必要性が語られているとの報告がありました。

練馬区では、バザーなどで財政を作り283人が参加したことが報告され、初参加者がほとんどなのでこれから高齢者のボランティア活動などにつなげたいと抱負が語られました。

・ 渋谷区では、10回の実行委員会を開催。地域の高齢者運動をどう進めるかなどの論議になってきたと報告がありました。・ 総括答弁で菅谷事務局長は、「この大会で高齢期運動の認知度が格段に上がったが、東京の運動は『道半ば』。これからが頑張りどき。』と述べました。・最後に石川徹実行委員長が、各実行委員の奮闘をねぎらい感謝の挨拶を行いました。  
(記 藤谷恵三)

## 2017年度日本高齢期運動サポートセンター 調査・研究助成事業

日本高齢期運動サポートセンターでは、日本における高齢期問題について、サポートセンターが支援する日本高齢期運動連絡会及び日本高齢者大会のめざす方向に一致する高齢期問題の調査研究に対して助成する事業を実施いたします。

### (1)応募申込書の提出

対象となる調査・研究分野に関して、調査・研究を行いたいとする個人、および共同研究の代表者から応募を募り、それらについて選考の上、調査・研究助成実施要領に基づき、調査・研究費の助成を行ないます。

2016年10月に公示、応募申込書の提出期限を2017年1月31日(日付印有効)とします。

### (2)助成金

調査・研究目的を達成するため、必要と認められる経費に対して、その一部を助成します。1件30万円を上限とします。ただし、当該調査・研究活動が1事業年度を超えて実施することが必要と認められるときは、この限りではありません。

### (3)応募者の資格

①サポートセンターが委嘱した研究・運動団体が推薦する個人及びグループ②日本高齢者運動連絡会に所属する中央団体が推薦する

個人及びグループ

### (4)対象となる研究の分野

対象とする調査・研究の分野は、サポートセンターが支援する日本高齢者運動連絡会及び日本高齢者大会の取り組みと運動の発展に寄与する高齢期問題とします。

### (5)選考と結果の通知

2017年度調査一研究助成は1件とします。応募者の調査・研究課題について、助成対象者、およびそれぞれの助成額を選考委員会で決定します。その後、全ての応募者に郵便で結果を通知します。

### (6)調査・研究結果報告書の提出

①調査・研究の結果を活字化しその現物を提出してください。

②調査・研究結果報告書は2018年4月末までに法人宛メールまたは文書で送付してください。期限に間に合わない時は、法人事務局にご連絡ください。

(7)助成費の返還について調査・研究内容が申込み当初の内容と著しく異なる場合、本調査・研究助成事業の本旨にそぐわない場合、報告書が上記(6)の内容を満たさない場合には、助成費の返還を求める場合があります。

## 全国老人福祉問題研究会 推奨原稿募集

すべての人がゆたかな高齢期をすごせる地域社会、それを支える現場、制度の構築をめざす全国老人福祉問題研究会(老問研)の主旨にそった実践報告、調査報告、研究論文等を募集します。特に、高齢者福祉・介護の現場や自治体等で働いている方々、地域その他で高齢者福祉に関わる活動を行っている方々、これから研究者をめざそうとする方々などに広く応募を呼びかけます。

### 1.投稿原稿の内容、種類

実践報告、ルポルタージュ、自分史、活動記録、政策提言、研究論文など自由

(ただし、未発表原稿にかぎります)

### 2.推奨

研究論文2万円(優秀3万円、佳作は1万円)、論文以外のものは1万円、入選5千円

3.字数等 3600字(4頁)以上~14400字

(16頁)以内(図表・写真等を含む)

4.原稿締め切り 2017年1月10日(第1次)

5.原稿送付先 メール添付ファイルで月刊ゆたかなくらし編集部

yutakanakurasi@honnoizumi.co.jp

または 〒113-0033

東京都文京区本郷2-25-6

本の泉社月刊ゆたかなくらし編集部

### 6.審査等

審査は『ゆたかなくらし』編集委員会が行い、月刊ゆたかなくらし2017年3月号誌上に発表します。

### 7.その他

投稿原稿の著作権は、老問研に帰属し、月刊ゆたかなくらしに順次掲載するものとします。